


| | | | |
|--------------|--|--|------|
| 事項 | 水稻のくさび米（黒点症状米）の発生の特徴と技術対策 | | |
| ねらい | 平成22年は記録的な猛暑となり、津軽地域の「つがるロマン」を中心にくさび米（黒点症状米）が発生し、落等が多発した。近年の高温傾向から今後も発生が懸念され、要因の解明と技術対策の構築が急務となっている。そこで、くさび米の発生及び対策について検討を行ったので、参考に供する。 | | |
| 指導参考内容 | <p>1 発生の特徴</p> <p>(1) 発生には品種間差がみられる。</p> <p>(2) カスミカメムシ類による斑点米は割れ粳で発生が多いが、くさび米は正常な粳で発生が多い。</p> <p>(3) 中位及び下位の枝梗で発生が多い。また、第1次及び第2次小穂より、玄米の発育が遅い第3次小穂で発生が多い。</p> <p>(4) 粒厚別では、粒厚の薄い1.8mm以下の玄米で発生が多い。ただし、多発生の場合は、1.9mm以上の玄米でも発生が増加する。</p> <p>2 対策</p> <p>(1) 多発生が想定される高温年は、出穂後積算気温が高くなると、精玄米中の混入率が増加するため、刈り取り適期内の早い時期に刈り取りを行う。</p> <p>(2) 精玄米中のくさび米混入率は、ふるい目幅を広げると減少する。</p> |  <p>写真 くさび米</p> | |
| 期待される効果 | 県産米の高品質安定生産のための参考となる。 | | |
| 利用上の注意事項 | <p>1 くさび米の発生は、出穂期以降の高温・多照条件下等により多発する傾向がみられるが、発生条件の詳細については明らかになっていない。</p> <p>2 米選機のふるい目幅を広げた時の減収率は、年次や栽培条件等により異なるので、収量減少による損失と、等級向上による利益を勘案して実施する必要がある。</p> <p>3 くさび米の症状は、イネシンガレセンチュウやアザミウマの被害でも発生するが、本県ではこれらによる発生は確認されていない。</p> | | |
| 問い合わせ先(電話番号) | 農林総合研究所 作物部 (0172-52-4396) | 対象地域 | 県下全域 |
| 発表文献等 | 平成11年度試験成績概要集（農業試験場） 平成23年度試験成績概要集（農林総合研究所） 東北農業研究 第64号 平成23年度東北農業研究成果情報 | | |

【根拠となった主要な試験結果】

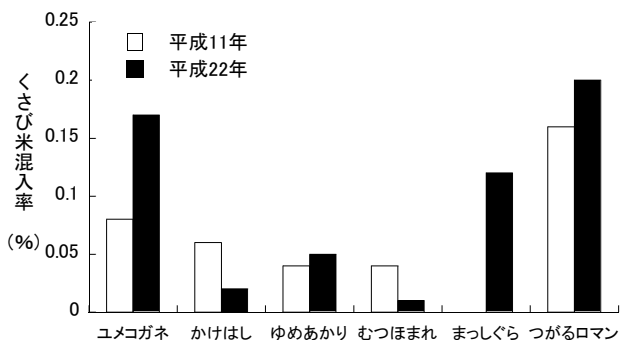


図1 品種別くさび米混入率

(平成11年 青森農試、平成22年 青森農林総研)

- (注) 1 くさび米混入率は、精玄米中に混入するくさび米粒数の割合(図3、5同様)
 2 「まっしぐら」は平成22年のみ調査

表1 正常粳及び割れ粳別くさび米混入割合

(平成11年 青森農試)

| 品種 | 調査 粒数 | 割れ粳 率(%) | くさび米 混入率 (%) | 混入割合(%) | |
|--------|----------|-------------|--------------------|---------|------|
| | | | | 正常粳 | 割れ粳 |
| アキヒカリ | 5,985 | 5.5 | 0.28 | 94.1 | 5.9 |
| むつほまれ | 5,879 | 7.2 | 0.22 | 61.5 | 38.5 |
| ゆめあかり | 6,002 | 5.1 | 0.33 | 90.0 | 10.0 |
| つがるロマン | 5,893 | 5.7 | 0.58 | 88.2 | 11.8 |

(注) 混入割合は総混入粒数を100とした時の割合

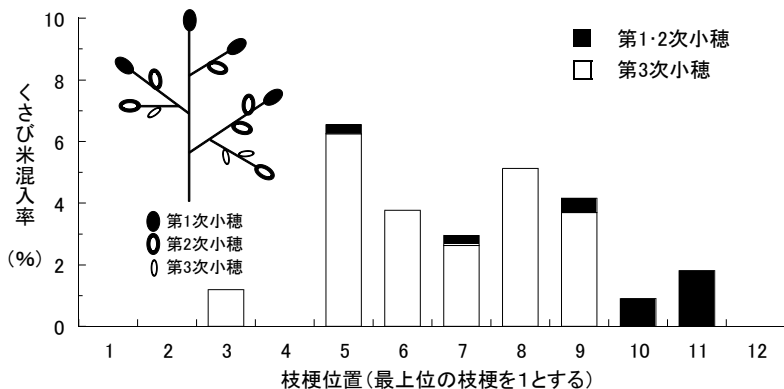


図3 枝梗別くさび米混入率

(平成22年 青森農林総研)

(注) 品種「つがるロマン」(以下、同様)

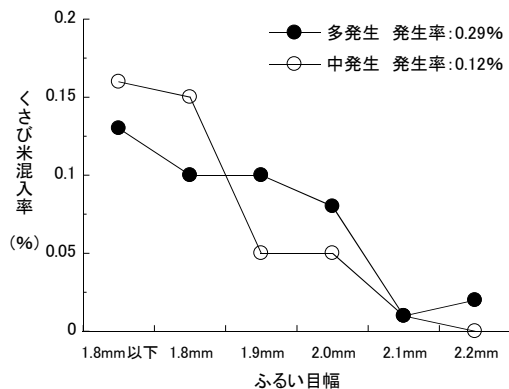


図4 粒厚とくさび米混入率

(平成22年 青森農林総研)

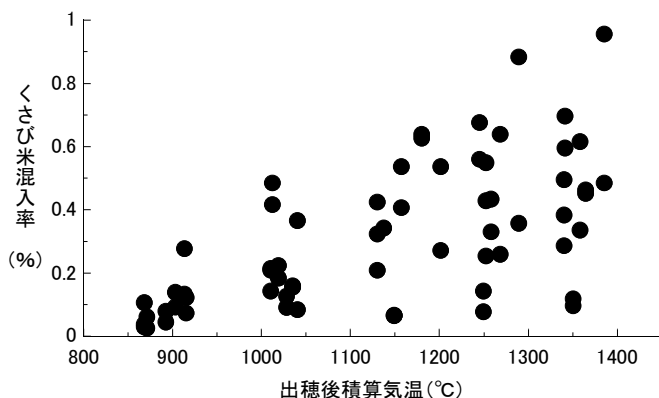


図5 出穂後積算気温とくさび米混入率

(平成22年 青森農林総研)

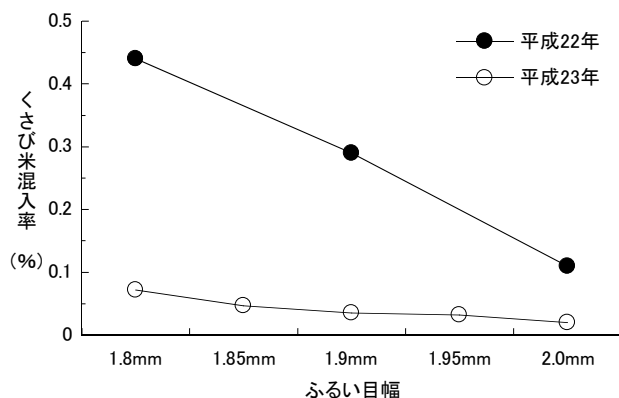


図6 ふるい目幅とくさび米混入率

(平成22～23年 青森農林総研)